

【甲賀市】第2回ワークショップ開催

10月29日に甲賀市において第3回合同対策委員会(第2回ワークショップ)が開催されました。前回は主観的な課題を挙げて意見交換をしましたが、甲賀市の各種データからみえる客観的な視点から問題、課題をそれぞれ抽出して整理していただきました。



データから課題を考えることに慣れていない方もおられ、「わからない・・・」「むつかしいね・・・」と言いつつ、(一人3つ以上の課題を見つけてくださいとお願いしていましたが)、いくつも課題を見つげられて、模造紙は課題を書いた付箋紙でいっぱいになりました。

その後、前回に議論した「日常生活において感じる不安や危険」と今回の「データからみえる課題」を比較しました。主観的な不安感などからでた課題と客観的なデータから見える課題とのかい離や偏り、また今後必要となるデータの確認など、それぞれの対策委員会で次回につながる気づきがありました。



【秩父市】ISS 始動！そして第2回WS開催

10月30日に秩父市の南小学校にてISS担当者会議が開催されました。ISSに取り組む2小学校、1中学校の担当者が集まり、当機構の代表理事の白石からISSの概要や国内外の認証校の取り組み事例などの講話がありました。その後、各学校の担当者から現在の準備状況などを含め、質疑応答などを行いました。各学校の先生方も清水小学校や朋有小学校などの事前視察もされていることから、ISSに対する抵抗感も少なく、積極的に取り組む姿勢が伺われました。

その後、教育長に面談し教育長のISSに取り組まれる前向きな姿勢や理念などを拝聴しました。教育委員会としては、全面的な支援体制をとっておられ、SCと並行して取り組むことによる大きな成果が期待できます。

続く、10月31日は、第2回各対策委員会のWSが午前、午後の2班に分かれて開催されました。



甲賀市同様に、今回は主観的に抽出されました課題に対して、今回は市から提供されました各種データやアンケート調査結果などから、

各委員が気づいた問題、課題を抽出し、前回の主観的な課題とのマッチングを行いました。

甲賀市同様に、主観的な問題とデータに見る客観的な問題とのかい離や偏りのほか、今後収集すべきデータなど、各委員会とも様々な意見がありました。それぞれのグループは、新しい模造紙にまとめなおしたり、模造紙を2枚つなげたりして工夫して議論を整理していました。

次回はこれらの課題に対して現在市や地域で行われている各種活動をプロットしてみて、課題と取組のミスマッチや事業の評価ややり方などを検討していきます。



【台湾】第3回セーフコミュニティ海外視察

2013年11月2～3日、日台のSC支援センターの共同により、SC海外研修を実施しました。台湾では、毎年秋に全国SC定例会議・シンポジウムを開催します。併せて認証式も行います。今回は、そこに日本からの参加者も加わり、国際イベントとなりました。日本からは十和田市、豊島区、小諸市、久留米市、北本市、甲賀市から9名が参加しました。

2日は朝9時開始のため、参加者は前日の1日に各自で台北に移動しました。先着組は、市内観光などで時間を過ごしたり、休息をとったり各自で過ごし、夕刻に集合して食事をとりました。

11月2日：国際シンポジウム・認証式

2日の午前中は、国際シンポジウムが開催され3人の基調講演がありました。まず、オーストラリア(ジェームズ・クック大学)のデル・ハンソン教授が「Mind the Gap!」というテーマで講演をされました。ハンソン教授は、「けが」という表出した氷山の一角を見るのではなく、水面下に隠れている個人・組織・コミュニティ・社会などにある多くの要因を見極め、実践と研究の両方の視点から取り組むことが重要であることを力説されました。

次に日本 SC 推進機構の代表理事の白石が、日本の SC の取組み事例を紹介しつつ SC の特徴は、既存の取組に「3 つの仕組み」を組み込むこと、PDCA サイクルの前に「地域診断(See)」が重要であることを説明しました。

最後に豊島区の齋藤氏が、豊島区の「区民ひろば」の役割と機能を中心に、豊島区の SC 活動を紹介します。台湾では、「里」という地縁組織が活発であることから、豊島区の区民ひろばの機能や運営に対して高い関心が示されました。



最後に、講演者は感謝状をいただきました

認証式典

午後からは、新竹市東区の認証と台北市中正区の再認証の式典が行われました。まず、新竹市住民による民族的な踊りによるオープニングの後、新竹市東区の認証式が行われました。合意書への署名後、チョウ教授が SC メンバーとしての宣言書を読み上げ、新竹市長へ盾や SC 旗の授与、記念撮影と進みました。

続いて、中正区住民によるベリーダンスが披露され、台北市中正区の再認証式が行われました。台北市で最も若い中正区長は、まだ着任間もないにもかかわらず積極的に地域住民と SC に取り組んでこられたことから、再認証とはいえ初回の認証さながらの感動でした。最後に、日本や台湾からお祝いの品が贈呈され、それぞれが記念写真を撮り、にぎやかな祝賀ムードのなか閉会となりました。



11月3日：トラベリングセミナー（新竹市東区）



市長は、他の2区にも導入すると宣言されました

二日目(3日)、は台北駅から鉄路で約1時間をかけ、前日に認証式を終えたばかりの新竹市東区を訪問しました。最初に区役所で新竹市の SC 活動の概要について報告がありました。新竹市は3区からなりませんが、

人口42万人の約半数を東区が占めています。台湾のシリコンバレーと言われハイテクで知られるとともに、大学が多いため若者の多いまちです。また、地理的には、非常に強い風が特徴で、「風のまち」としても知られています。新竹市は「居家安全」「学校安全」「交通安全」「公共場域安全」「畜養性傷害防制(自殺予防)」の5つの対策委員会を設置しており、今回は、それらの

取組の概要についてご報告いただき、その後に、地域に出向き、地域の取組の状況をみせていただきました。



自殺予防の重点地域では、退役軍人が多く住んでいます。多くの方たちは一人暮らしで地域と交わらず孤立しがちで自殺のハイリスク者となっているため、各種の取組を展開しています。ご報告された女性自身も自殺企図の経験があり、自分の立ち直りの経験を活かすべく自殺対策に関わっていると、台湾の SC が住民主体の取組である一端をみせていただきました。

続いて、陽光小学校を訪問しました。芸術的で遊び心がちりばめられた校舎や校庭に生えている木を活かした遊具など、日本と異なる環境のなか



校長(左前)が学校案内くださいました

で、安全向上の取組をご紹介いただきました。校長先生は ISC には積極的ですが、台湾におけるセーフスクール (ISS) 活動に関して心配があったので具体的には取り組んでいませんでしたが、パイ先生から説明を受けて、前向きに検討されているとことでした。

最後に、新竹市警察の情報管理本部を訪れ、市内を網羅する監視カメラによる犯罪の早期発見など、防犯に関するシステムのご紹介をいただきました。

朝から夜まで盛りだくさんの1日でしたが、日本と違う面、同じ面を肌で感じていただける機会となったのではないでしょうか。今回経験されたことを、今後の各自治体での取組に反映していただくことを期待しています。

【JISC】北海道でISSについて講演

11月5日、日本 SC 推進機構の白石が、札幌市立大学においてセーフスクールについてお話をしました。以前に十和田の SC 活動をご支援されていた山田典子准教授のご企画で、1回目は公開講座、2回目は大学院生を対象とした講座でした。当日は、北海道警察からも5~6人の方がご出席され、昼・夜と2回の講義にご出席くださいました。その後、北海道警察本部長にもお会いし、SC の動向についてご説明差し上げました。今後、北海道で活動が始まることを願っています。

【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
※問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで。